

選択B：日本文化論

【時間・コマ数】

週1日 全16コマ（1コマ50分）

【クラス人数・クラス数】

6人～10人、1～2クラス

【到達目標】

- ①戦後の日本および日本人が「日本文化論」としてどのように捉えられてきたか、その言説を追い、全体像を理解する
- ②「論壇」や「知識社会」の話題となり一般にもよく知られる著書あるいは論文原書に触れ、内容を理解する
- ③当時の社会的背景を理解した上で現代日本社会に照射し議論を深める

【授業概要】

青木保著『「日本文化論」の変容—戦後日本の文化とアイデンティティ—』を中心に、様々な日本人論に関する書籍を講読しながら、戦後日本人の日本文化及びアイデンティティに関する認識がどのように変容したかを考察する。本文で著者が引用した文献や内容の理解不十分な点を原書にあたり、筆者の解釈についても議論する。

【授業テーマ・内容】

第一回以降は、担当の学生が本文内容をまとめたレジメを作成し、それをもとに発表し、話し合いをする。本文で不明確な点などは原著にあたり考察する。進度はクラスによって異なる。

第一回：概要の把握

本書の全体像の把握、話し合い

- ・ マッカーサーの「12歳」発言の考察
- ・ ルース・ベネディクトの二元論

原著：ルース・ベネディクト『菊と刀—日本文化の型』（長谷川松治訳）社会思想社1967
南博『日本人論—明治から今日まで』岩波書店1994

第二回「否定的特殊性の認識（1945～1954）」①

本書の5ページ程度までの読解、話し合い

- ・坂口安吾「墮落論」
- ・武士道
- ・近代の超克
- ・丸山真男の日本ファシズム論
- ・桑原武夫『現代日本文化の反省』

原著：坂口安吾「墮落論」『坂口安吾全集04』坂口安吾1998筑摩書房

きだみのる『気違い部落周遊紀行』新潮文庫1951

第三回「否定的特殊性の認識（1945～1954）」②、「歴史的相対制性の認識（1955～1963）」①

本書の5ページ分程度までの読解、話し合い

- ・歴史的唯物論
- ・「マルクス主義的發展段階論」、「近代化論」とは何か
- ・クリフォード・ギアツの「逆倒」の考察

原著：桑原武夫「伝統と近代化」『岩波講座・現代思想』岩波書店

第四回「歴史的相対制性の認識（1955～1963）」②

- ・文化的国民主義
- ・加藤周一の日本文化の雑種性
- ・梅棹忠夫の「生態史観」
- ・ロバート・ベラーの宗教倫理

原著：加藤周一「日本文化の雑種性」

第五回「歴史的相対制性の認識（1955～1963）」②

- ・大塚久雄「近代資本主義の特質」
- ・ロバート・ベラー『日本近代化と宗教倫理』1962堀一郎・池田昭訳
- ・梅棹忠夫「文明の生態史観」

第六回「肯定的特殊性の認識」前期（1964～1976）、後期（1977～1983）」①

中根千枝「日本の社会構造の発見」『タテ社会の人間関係』1967

第七回「肯定的特殊性の認識」前期（1964～1976）、後期（1977～1983）」②

- ・作田啓一「恥の文化再考」

- ・尾高邦雄『日本の経営』
- ・ ジェームズ・アベグレン『日本の経営』
- ・ 土井健郎『「甘え」の構造』
- ・ 木村敏『人と人との間』

第八回「肯定的特殊性の認識」前期（1964～1976）、後期（1977～1983）③

- ・ 三島由紀夫「文化防衛論」

【教材】

青木保『「日本文化論」の変容』（1992）中央公論社

3章「否定的特殊性の認識」、4章「歴史的相対性の認識」、5章「肯定的特殊性の認識」

上記の文献

以上